

検査情報月報



2013 2月
2013 1月

横浜市衛生研究所

平成25年2月号 目次

【トピックス】

魚介類中の動物用医薬品検査結果(その2)	1
年末食品一斉収去検査	2
平成24年度 食品の食中毒菌汚染実態調査	4
鶏肉中の動物用医薬品検査結果	5

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成25年1月	6
------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成25年1月分)	11
-------------------------------	----



魚介類中の動物用医薬品検査結果(その2)



平成24年11月に食品専門監視班が収去した、市内に流通するサケ目魚類(サーモントラウト2件、ギンザケ1件)、スズキ目魚類(カンパチ1件、ブリ2件)、甲殻類(エビ2件)及び冷凍食品(サーモントラウト1件、エビ1件)について、抗生物質のテトラサイクリン系(3項目)及びクロラムフェニコール、並びに合成抗菌剤のニトロフラン類(3項目)及びエンロフロキサシン等(28項目)について計35項目の検査を行いました。その結果、表に示すとおり、すべて不検出でした。

表 動物用医薬品の検査結果

項目名	検査結果 (カッコ内は基準値)				検出限界
	サケ目<3件>	スズキ目<3件>	甲殻類<2件>	冷凍食品<2件>	
【抗生物質】					
オキシテトラサイクリン	N.D. (0.2)	N.D. (0.2)	N.D. (0.2)	N.D. (*)	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.03
テトラサイクリン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.02
クロラムフェニコール	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.0005
【合成抗菌剤】					
ニトロフラントイン	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.001
フラゾリドン	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.001
フラルタドン	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.001
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンを含む)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.005
オキシリニック酸	N.D. (0.1)	N.D. (0.06)	N.D. (0.03)	N.D. (*)	0.01
オフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
オルビフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
オルメトプリム	N.D. (0.1)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.02
クロピドール	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
サラフロキサシン	N.D. (0.03)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
ジフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファキノキサリン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファジアジン	N.D. (0.1)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファジミジン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファジメキシシン	N.D. (0.1)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファドキシシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファピリジン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファメキサゾール	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファメラジン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファモノメキシシン	N.D. (0.1)	N.D. (0.1)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
ダノフロキサシン	N.D. (0.1)	N.D. (0.1)	N.D. (0.1)	N.D. (*)	0.01
チアンフェニコール	N.D. (*)	N.D. (0.02)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
トリメトプリム	N.D. (0.08)	N.D. (0.05)	N.D. (0.05)	N.D. (*)	0.02
ナリジクス酸	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
ノルフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
ピリメタミン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.02
ピロミド酸	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
フルメキン	N.D. (0.5)	N.D. (0.04)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
フロルフェニコール	N.D. (0.2)	N.D. (0.03)	N.D. (0.1)	N.D. (*)	0.01
マルボフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01

単位:ppm N.D.:不検出 *:「含有しない」

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

年末食品一斉収去検査

年末食品等一斉点検は厚生労働省医薬食品局食品安全部長から出された「平成24年度食品、添加物等の年末一斉取締りの実施について」に基づき、食品流通量が増加する年末における食中毒の発生防止を図るとともに、積極的に食品の衛生確保を図るため、全国一斉に実施されました。

本市においては平成24年11月1日から12月31日までを年末取締り期間と定め、一斉点検を行いました。そのうち、11月26日から12月12日まで食品専門監視班と福祉保健センターによる収去が実施され、当所で細菌検査と理化学検査を行いました。

1 細菌検査

細菌検査の内訳は、生野菜(カット野菜)・魚肉ねり製品・そうざいなど99検体346項目(表1)でした。

検査の結果、規格基準^{*1}違反はなく、衛生規範^{*2}不適が6検体ありました。

依頼元の食品専門監視班と福祉保健センターに連絡し、安全確保を図りました。

^{*1} 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたものことです。

^{*2} 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。

表1 収去検査結果

平成24年11~12月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反・不適 検体数	違反・不適理由
魚介類加工品				
魚肉ねり製品	12	12		
つくだ煮	1	3		
野菜類及びその加工品				
浅漬け	19	38		
生野菜(カット野菜 ^{*3})	45	225	5	細菌数超過 ^{*4}
その他の食品				
加熱そうざい(そうざい類、弁当類)	15	45	1	細菌数超過 ^{*5}
非加熱そうざい(そうざい類、弁当類)	7	23		
合 計	99	346	6	

^{*3} 非加熱そうざいとして検査を実施

^{*4} 細菌数 110 万、110 万、110 万、140 万、310 万/g (基準 100 万/g 以下)

^{*5} 細菌数 190 万/g (基準 10 万/g 以下)

【 検査研究課 細菌担当 】

2 理化学検査

搬入された192検体について食品添加物等の検査を行いました。今回は野菜類・果実加工品、魚介類加工品、菓子類、かん詰・びん詰食品などを重点に、延べ2,639項目の検査を行いました(表2)。

その結果、いずれも食品衛生法に適合していました。

表2 理化学検査結果

平成24年11~12月

大分類	検体数	違反検体数	項目数	検査項目						
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤	メタノール
冷凍食品	3		37	6	24	3	3	1		
魚介類	2		2					2		
魚介類加工品	25		221	69	135	13		2	2	
肉卵類及びその加工品	12		205	36	151	6			12	
穀類及びその加工品	8		127	18	90		19			
野菜類・果実及びその加工品	31		500	79	360	50	5	6		
菓子類	45		609	51	404	55	97	2		
清涼飲料水	5		103	45	48	10				
酒精飲料	10		120	22	84	5	6			3
乳製品	1		3	3						
かん詰・びん詰食品	21		291	39	194	10	43	4	1	
その他の食品	29		421	78	305	22	13	3		
合計	192	0	2639	446	1795	174	186	20	15	3

【 検査研究課 食品添加物担当 】

平成 24 年度 食品の食中毒菌汚染実態調査

食品の食中毒菌汚染実態調査は、食中毒発生の未然防止対策を図るため、流通食品の汚染実態を把握することを目的として厚生労働省が行っている事業で、毎年の食中毒発生状況等を踏まえ、検査項目や検体の種類は年度により若干異なっています。

本年度は腸管出血性大腸菌(EHEC) O26、O111及びO157、サルモネラ属菌、カンピロバクター・ジェジュニ及びコリ、大腸菌について、食肉110検体の調査を行いました(EHECは106検体、カンピロバクターは36検体、大腸菌は2検体について実施)。

EHEC O26、O111及びO157はいずれも検出されませんでした。

サルモネラ属菌は、鶏ミンチ肉 10検体(血清型は Infantis 7、Schwarzengrund 1、Infantis及びManhattan 1、Infantis及びSchwarzengrund 1)、豚ミンチ肉 1検体(血清型 Derby)から検出されました。

カンピロバクターは、鶏ミンチ肉 12検体、牛レバー 1検体から検出され、すべてカンピロバクター・ジェジュニでした。また、大腸菌は、いずれも検出されませんでした。

平成 23 年 4 月、飲食チェーン店で発生した EHEC O111 による食中毒事件では、肉を生で喫食した数名が亡くなられ、重症者も多数報告されました。この事件を受け、厚生労働省では生食用食肉について食品衛生法に基づく規制を制定しました。また、牛のレバーについても牛レバー内部からの EHEC O157 等の菌検出が報告され、食中毒のおそれがあることから、平成 24 年 7 月から牛レバーの生食用としての販売・提供は禁止されました。

厚生労働省はこのような規制によって食中毒の予防を図る一方で、この全国的な食品の汚染実態調査によりEHEC、サルモネラ等の食中毒菌について、挽肉、生レバー、生食用野菜等の流通食材の汚染実態を把握し、陽性食品の処分や注意喚起を行っています。当所も引き続きこの調査に協力していく予定です。

表 1 食肉の食中毒菌汚染実態調査結果(EHEC O157、O26 及び O111、サルモネラ属菌)

検体の種類	検査実施検体数 (陽性検体数)			
	EHEC※ ¹	サルモネラ属菌	カンピロバクター※ ²	大腸菌
結着肉 牛	17	17		
ミンチ肉 牛	18	18		
豚	15	15(1)		
鶏	24	26(10)	26(12)	
他(牛豚混合など)	15	17	1	
牛レバー(加熱用)	9	9	9(1)	
生食用食肉 馬刺し	1	1		1
馬レバー	1	1		1
ローストビーフ	6	6		
計	106(0)	110(11)	36(13)	2(0)

※¹ EHEC:腸管出血性大腸菌 O26、O111、O157

※² カンピロバクターはジェジュニおよびコリの検査を実施(陽性はすべてジェジュニ)

【 検査研究課 細菌担当 】



鶏肉中の動物用医薬品検査結果



平成24年8月に食品専門監視班が収去した、市内に流通する鶏肉の筋肉10件について、動物用医薬品の合成抗菌剤28項目及び内寄生虫用剤1項目の検査を行いました。その結果、いずれの項目も不検出でした。

表 動物用医薬品の検査結果

項目名	件数	検出件数	検査結果	基準値	検出限界
【合成抗菌剤】					
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンを含む)	10	0	N.D.	0.05以下	0.005
オキシロニック酸	10	0	N.D.	0.03以下	0.01
オフロキサシン	10	0	N.D.	0.05以下	0.01
オルビフロキサシン	10	0	N.D.	含有しないこと	0.01
オルメトプリム	10	0	N.D.	0.1以下	0.02
クロピドール	10	0	N.D.	5以下	0.01
サラフロキサシン	10	0	N.D.	0.01以下	0.01
ジフロキサシン	10	0	N.D.	含有しないこと	0.01
スルファキノキサリン	10	0	N.D.	0.05以下	0.01
スルファジアジン	10	0	N.D.	0.1以下	0.01
スルファジミジン	10	0	N.D.	0.10以下	0.01
スルファジメトキシシン	10	0	N.D.	0.05以下	0.01
スルファドキシシン	10	0	N.D.	含有しないこと	0.01
スルファピリジン	10	0	N.D.	含有しないこと	0.01
スルファメトキサゾール	10	0	N.D.	0.02以下	0.01
スルファメキシピリダジン	10	0	N.D.	含有しないこと	0.01
スルファメラジン	10	0	N.D.	含有しないこと	0.01
スルファモノメトキシシン	10	0	N.D.	0.1以下	0.01
ダノフロキサシン	10	0	N.D.	0.20以下	0.01
チアンフェニコール	10	0	N.D.	0.02以下	0.01
トリメプリム	10	0	N.D.	0.05以下	0.02
ナリジクス酸	10	0	N.D.	含有しないこと	0.01
ノルフロキサシン	10	0	N.D.	0.02以下	0.01
ピリメタミン	10	0	N.D.	0.05以下	0.02
ピロミド酸	10	0	N.D.	含有しないこと	0.01
フルメキン	10	0	N.D.	0.5以下	0.01
フロルフエニコール	10	0	N.D.	0.1以下	0.01
マルボフロキサシン	10	0	N.D.	含有しないこと	0.01
【内寄生虫用剤】					
フルベンダゾール	10	0	N.D.	0.20以下	0.002

単位:ppm N.D.:不検出

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 1月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ警報が発令されました。
- 風しんの流行が継続しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握疾患

<細菌性赤痢>

1件のflexneri(B群)の報告がありました。インドネシアでの経口感染が推定されています。

<腸管出血性大腸菌感染症>

1件(無症状病原体保有者O157 VT2)の報告がありました。職場の定期検便で明らかになりましたが、周囲の有症状者や感染者はいませんでした。

<腸チフス>

1件の報告がありました。ミャンマーでの感染が推定されています。最近の国内報告例のほとんどはアジア諸国等の海外からの輸入事例で、海外旅行が日常化したことにより増加傾向にあります。

<デング熱>

1件の報告がありました。渡航先(カンボジア)での、蚊からの感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外(アジア諸国等)での感染です。

<レジオネラ症>

1件の肺炎型の報告がありました。感染原因は現在調査中です。

<レプトスピラ症>

1件の報告がありました。国内での水系感染が推定されていますが、詳細な感染経路は現在調査中です。レプトスピラ症は、病原性レプトスピラの保菌動物(ネズミ等)の尿で汚染された環境での労働やレジャーの他、保菌動物の尿や血液に直接触れる可能性のある労働などでの感染が報告されています。

<アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症3件の報告がありました。うち2件は国内での感染が推定され、そのうち1件は性的接触による感染、もう1件は感染経路不明でした。残るもう1件は感染経路感染地域等不明でした。

<急性脳炎>

40歳代の報告が1件ありました。病原体、原因等不明です。

<後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

1件の無症状病原体保有者の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

<梅毒>

1件の早期顕症梅毒 I 期の報告があり、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

<風しん>

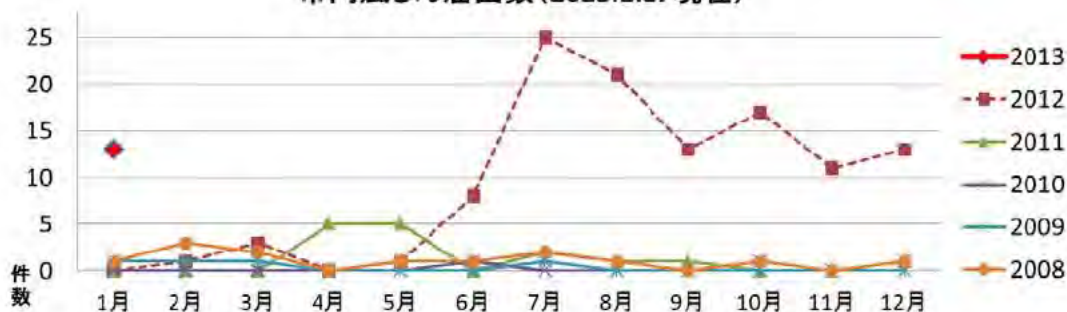
13件(男性10件、女性3件)の報告がありました。依然として男性の報告が多い状況ですが、女性(すべて50歳代)の3件はいずれも予防接種歴が確認できませんでした。現在、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などで流行が継続しており、横浜市でも報告が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています※。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の20~40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

市内風しん届出数(2013.1.27現在)



<麻しん>

30歳代男性(ワクチン接種歴1回(1歳時))の臨床診断例の報告が1件ありました。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

定点把握疾患

平成24年12月24日から平成25年1月27日まで(平成24年第52週から平成25年第4週まで。ただし、性感染症については平成24年12月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年 週一月日対照表

第52週	12月24日～12月30日
第1週	12月31日～1月6日
第2週	1月7日～1月13日
第3週	1月14日～1月20日
第4週	1月21日～1月27日

1 患者定点からの情報

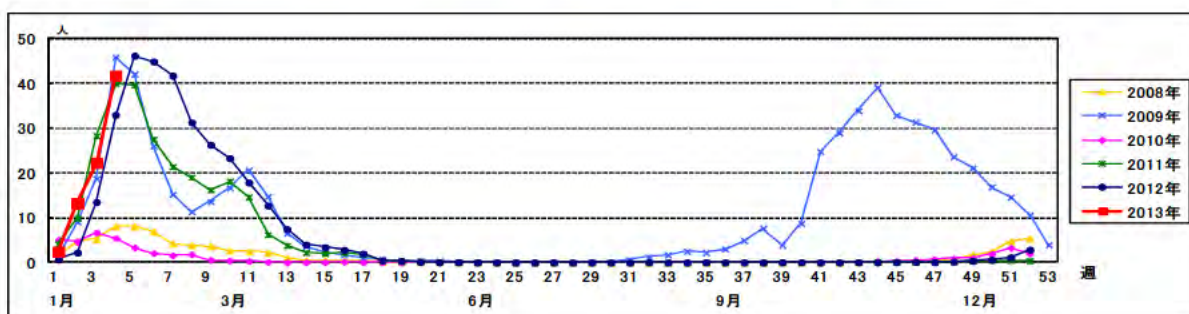
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<インフルエンザ>

第4週に市全体で定点あたり41.80となり、警報が発令されました。第4週での警報発令は昨シーズンと同時期です。学級閉鎖も急激に増加しています。第4週の迅速キットの結果はA型99.0%、B型1.0%、AB型ともに陽性0.1%でした。横浜市衛生研究所におけるウイルス検出結果では、AH3亜型95.5%、AH1pdm09型2.3%、B型(山形系統)2.3%と、AH3亜型がほとんどを占めており、全国とほぼ同じ傾向です。市内で検出されたインフルエンザウイルスについて国立感染症研究所でワクチン株との抗原性解析(HI試験)を行ったところ、AH3亜型株(A/YOKOHAMA/159/2012)では2管差、AH1pdm09型株(A/YOKOHAMA/154/2012)で1管差、B型(山形系統)株(B/YOKOHAMA/82/2012)で2管差でした。なお、一般的にHI価4倍(2管差)以内でワクチン株と類似しているといわれています。また、同じく国立感染症研究所で実施された薬剤感受性試験では、市内で検出されたAH3亜型株(A/YOKOHAMA/159/2012)、B型(山形系統)株(B/YOKOHAMA/82/2012)とも、オセルタミビル、ペラムビル、ザナミビル、ラニナミビルに対する感受性低下は認めませんでした。

◆ [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#) ◆ [インフルエンザ臨時情報](#)



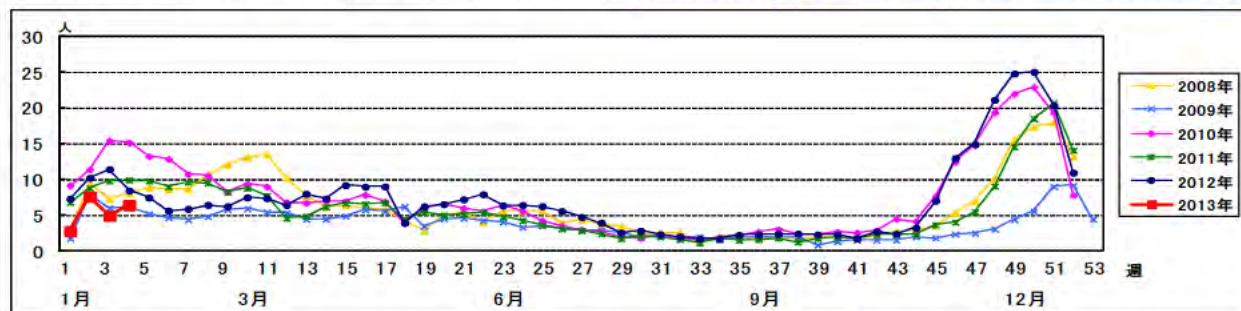
< 感染性胃腸炎 >

昨年第50週に定点あたり25.11と流行しましたが、第4週では6.48と落ち着いています。ただ、施設内等での集団発生は現在も報告されているため、引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

◆横浜市衛生研究所:横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>



< 性感染症 >

12月は、性器クラミジア感染症は男性が19件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が11件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が10件、女性が0件でした。

< 基幹定点週報 >

全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に1.00を下回りました。横浜市でも第52週2.00、第1週0.00、第2週0.00、第3週5.00、第4週1.33と、先月報告分に比べやや減少傾向です。ただ、全国的にも以前のベースラインの0.40前後の状態より多い状況であり、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

< 基幹定点月報 >

12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症13件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点52件(鼻咽頭ぬぐい液49件、ふん便吐物3件)、内科定点16件(鼻咽頭ぬぐい液15件、吐物1件)、眼科定点2件(眼脂)、基幹定点14件(鼻咽頭ぬぐい液7件、ふん便1件、髄液6件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ27人、気道炎18人、胃腸炎3人、発疹症2人、流行性耳下腺炎、口内炎各1人、内科定点はインフルエンザ13人、気道炎2人、胃腸炎1人、眼科定点は流行性角膜炎2人、基幹定点はインフルエンザ6人、無菌性髄膜炎4人、脳炎、肝炎各1人でした。

2月7日現在、小児科定点のインフルエンザ患者9人と気道炎患者1人からインフルエンザウイルスAH3(以下Inf-AH3)型、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH1pdm09型、気道炎患者4人からアデノウイルス(1型、2型、4型と6型、各1人)、内科定点のインフルエンザ患者3人からInf-AH3型、基幹定点のインフルエンザ患者1人からInf-AH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のインフルエンザ患者15人と気道炎患者1人からInf-AH3型、気道炎患者4人からRSウイルスとヒトコロナウイルス(各2人)、口内炎患者1人からコクサッキーウイルスA6型、内科定点のインフルエンザ患者9人からInf-AH3型、基幹定点のインフルエンザ患者4人からInf-AH3型、無菌性髄膜炎患者2人からアデノウイルス(型未同定)とコクサッキーウイルスA6型(各1人)の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

1月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から9件、定点以外の医療機関等からは1件あり、赤痢菌、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2)、チフス菌が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から3件で、A群溶血性レンサ球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(1月)

感染性胃腸炎							
検査年月 定点の区別	1月			2013年1月			
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*	
件数	1	9	1	1	9	1	
菌種名							
赤痢菌		1			1		
腸管出血性大腸菌			1			1	
チフス菌		2			2		
不検出	1	6	0	1	6	0	
その他の感染症							
検査年月 定点の区別	1月			2013年1月			
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*	
件数	3	4	8	3	4	8	
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌	T1	1			1		
	T6	1		1			
	T4	1		1			
	T B3264	1		1			
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		1			1		
インフルエンザ菌			1			1	
肺炎球菌		2			2		
<i>Neisseria meningitidis</i>			2			2	
結核菌			5			5	
不検出	0	0	0	0	0	0	

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成24年12月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成25年1月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成24年12月のアクセス件数、アクセス順位及び平成25年1月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成24年12月)

平成24年12月の総アクセス数は、191,637件でした。主な内訳は、感染症74.1%、食品衛生9.7%、保健情報4.4%、検査情報月報3.5%、生活環境衛生1.3%、薬事0.9%でした。

(2) アクセス順位 (平成24年12月)

12月のアクセス順位(表1)

表1 平成24年12月 アクセス順位

は、第1位が「インフルエンザワクチンについて」、第2位が「ヒトパピローマウイルス(HPV)と子宮頸癌等について」、第3位が「マイコプラズマ肺炎について」でした。

順位	タイトル	件数
1	インフルエンザワクチンについて	13,575
2	ヒトパピローマウイルス(HPV)と子宮頸癌等について	12,106
3	マイコプラズマ肺炎について	6,445
4	臨時情報	5,377
5	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について	5,233
6	衛生研究所トップページ	4,405
7	横浜市感染症臨時情報 感染性胃腸炎第4報	3,929
8	感染症発生状況	3,913
9	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,661
10	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	3,119

データ提供:総務局IT活用推進課

12月の総アクセス数は、前月比で約15%の増加となっています。感染症に関するアクセス数が多くを占めています。その中でも今月は、インフルエンザなどのワクチンやヒトパピ

ローマウイルス(HPV)と子宮頸癌等に対する関心の高さが伺えます。今年、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が流行していることから、臨時情報などへのアクセスが増加しています。引き続き、手洗いやうがいによる予防対策が大切です。

また、マイコプラズマ肺炎のアクセス件数は、年間を通じて多くなっています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、平成24年第49週(12月3日～9日)1.06、第50週(12月10日～16日)1.07、第51週(12月17日～23日)0.94、第52週(12月24日～30日)0.89となっており、徐々にではありますが減少してきています。

厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般の人向け) 平成23年12月

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou30/index.html>

「ノロウイルスによる感染性胃腸炎」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/srsv1.html>

「ヒトパピローマウイルス(HPV)と子宮頸癌等について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/hpv1.html>

「インフルエンザワクチン」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/influvaccine.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成25年1月）

平成25年1月の問い合わせは、6件でした(表2)。

表2 平成25年1月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
インフルエンザ定点について	1	感染症・疫学情報課
刺身用イカの寄生虫について	1	感染症・疫学情報課
当所WEBのリンクについて(インフルエンザ流行情報について)	1	感染症・疫学情報課
当所WEBのリンクについて(ロタウイルスについて)	1	感染症・疫学情報課
トキソプラズマについて	1	感染症・疫学情報課
クリプトコッカス髄膜炎について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成25年1月）

平成25年1月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表3)。

表3 平成25年1月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
1月 7日	感染症に気をつけよう(1月号)	掲載
1月 7日	過去の新着情報の掲載方法変更	掲載
1月 9日	横浜市インフルエンザ流行情報2号	掲載
1月 9日	風しんの発生状況	掲載
1月10日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
1月11日	流行性耳下腺炎(ムンプス、おたふくかぜ)について	更新
1月17日	横浜市インフルエンザ流行情報3号	掲載
1月23日	風しんについて	更新
1月23日	先天性風しん症候群について	更新
1月31日	横浜市インフルエンザ流行情報4号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】